

平成23年度 学校評価 最終報告

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	達成度判断基準	評価結果	分析と次年度に向けて
1 ものづくりの実践的な技術の習得や資格取得に積極的に取り組み、個々の生徒の適性に合った進路実現を図る。	① 個々の生徒の適性に合った進路実現を図る。また、適切な進路情報を積極的に提供していく。	昨年度の高校生求人がやや改善されたものの、東日本大震災や世界情勢の不安感から今年度も引き続き不安定な雇用情勢が予想される。工業高校として就職を中心とした進路実現が求められている。	<成果指標> 進路達成率をみる。	生徒の就職・進学の実現について A 100%の達成率であった。 B 98%以上の達成率であった。 C 96%以上の達成率であった。 D 96%未満であった。	A段階	2月末で就職・進学希望生徒全員の進路が決定した。進路指導、担任、各科等学校全体が取り組んだ成果である。この目標は本校の使命であり今後も評価項目とする。
			<努力指標> 進路指導だより等の情報提供を実施する。	進路情報が生徒の進路選択に A 参考になり、十分に立っている。 B だいたい役に立っている。 C あまり役に立っていない。 D 役に立っていない。	A+B=80%	進路だよりをはじめ、クラス、学年集会などでの就職情報を積極的に提供した。外部講師による講演会や就職支援員を活用し意識付けを行っている。さらに内容等を検討し、充実したものにする。
	② 進路実現の可能性を広げる資格取得に積極的に取り組むとともに、ものづくりの技術向上に成果を上げる。	目標とする資格取得に向けて生徒の意欲を引き出す必要がある。また、22年度ものづくりコンテストでは旋盤部門で全国第3位となるも、様々な部門で成果を上げたいところである。	<努力目標> 資格取得に向け生徒の意識を高める。	生徒が目標とした資格取得について A ほとんど取れて十分満足している。 B かなり取れてほしい満足している。 C 少ししかとれず、あまり満足していない。 D 不満足である。	A+B=64%	かろうじて目標(60%)をクリアした。生徒の取得願望は強いが、学習が伴っていない。補習等の充実で補う必要がある。
			<成果指標> ものづくり大会においての上位進出を目指す。	今年度のものづくり大会において A 全国大会で上位入賞することができた。 B 全国大会への出場ができた。 C 北信越大会に出場できた。 D 県大会出場にとどまった。	C段階	旋盤作業部門で1,2位となり北信越大会へ出場したが2,3位となり全国大会へ出場することはできなかった。来年度は指導体制を強化し他の競技を含め目標を突破したい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学ともに進路実現の成果ははすばらしい。就職後の離職率は調査しているのか。 ・ホームページでの進路情報、資格取得状況などの情報発信は最新のデータを掲載して欲しい。 ・従来から力を入れてきた資格検定取得には今ひとつの取組不足を感じる。ジュニアマイスター制度などを活用してはどうか。 ・ものづくりコンテストについてはそれぞれの工業科が一体となって取り組み、ものづくりの小松工業高校の充実を目指して欲しい。 				
上記の結果を踏まえた 今後の方策		<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現100%は本校にとっての使命である。特に就職については、今後とも学校全体で取組を行っていく。就職希望生徒はさらに増加傾向にあり地元企業との連携の強化と新規開拓が必要である。 ・充実した進路情報の提供を生徒、保護者に行い、キャリア意識を高める。 ・資格取得、ものづくりにおいて成果をあげるために、工業各科毎が一体となり達成できる具体的な目標を掲げ取り組む。 				

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	達成度判断基準	評価結果	分析と次年度に向けて
2 規範意識の醸成やコミュニケーション能力の向上に取り組む、工業人としての基本的な生活習慣の確立を図る。	② 学校教育の基本であり、進路実現につながる生活面の改善に取り組む。	昨年度問題行動による指導が多くなり、生活面での課題が散見された。全職員が一丸となって取り組む必要がある。	<p><努力指標> 基本的な生活習慣の確立を推進する。</p>	<p>教職員が生活指導（服装容儀、あいさつ）について A 積極的に取り組んでいる。 B だいたい積極的である。 C あまり積極的ではない。 D 消極的である。</p>	A+B=97%	毎週1日は全職員で朝の登校時挨拶、容儀指導などの取り組みにより、ほぼ全員が積極的に取り組んだ。
			<p><成果指標> 遅刻の状況を把握する。</p>	<p>昨年度と比較し、遅刻件数が A 30%以上減少した。 B 20%以上減少した。 C 10%以上減少した。 D 10%未満であった。</p>	D段階	1月末現在で昨年比5%(前期22%)の減少にとどまっている。進路決定後の3年生、及び1年生の遅刻が目立つ。朝学習だけでなく、様々な面からの指導が必要である。
			<p><満足度指標> 生徒自らの生活面についての充実度を見る。</p>	<p>生徒自身が服装・頭髪について A 本校生徒は頭髪・服装がきちんとしている。 B 本校生徒は頭髪・服装がだいたい整っている。 C 本校生徒は服装・頭髪がやや乱れている。 D 本校生徒は服装・頭髪が乱れている。</p>	A+B=70%	まだまだ生徒の意識が低い。根気強く指導していく必要がある。
			<p><成果指標> 生徒指導部での特別指導の推移を見る。</p>	<p>昨年度と比較し、特別指導件数が A 30%以上減少した。 B 20%以上減少した。 C 10%以上減少した。 D 10%未満であった。</p>	B評価 21%減少 (1月末現在)	前期段階ではD評価であったが、後期段階ではB評価となった。徐々に指導の成果が現れてきたようである。来年度は前期、特に1年生の指導を重点的に行う必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		<p>・生活指導への取組、特別指導件数の減少については効果が認められるが、遅刻件数や生徒自身の容儀面に不足を感じる。進路にも関係することでもあり、規律、規範意識の確立に向け地道な息の長い取り組みを行って欲しい。</p>				
上記の結果を踏まえた今後の方策		<p>・全職員で朝の登校時挨拶、容儀指導は指導目標を明確にし、的を絞った取組を行う。 ・朝学習を工夫し、時を守り、時間を有効に活用する習慣を身につけさせる。 ・新入生に対し、重点的に生活指導を行う。</p>				

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	達成度判断基準	評価結果	分析と次年度に向けて
3 「確かな学力」を身につけさせるとともに、部活動の活性化を図り、学習と部活動の両立を目指す。	① 進路実現を図るために、基礎学力の充実・定着と学習時間の確保がに取組む。	授業以外の学習時間が不足している現状がある。また、授業ではわかりやすい授業によって学習意欲を引き出すことが求められており、さらに部活動との両立も大切である。	<努力目標> 授業以外での補習や家庭学習時間を確保する。	生徒が授業以外での自主的な（補習含む）学習時間を目標1時間確保することについて A ほとんど達成できた。 B 週に2～3回達成できた。 C 週に1回程度達成できた。 D ほとんど達成できなかった。	A+B=40%	昨年度より7%向上したが目標とする60%には及ばなかった。本校の大きな課題であり、部活動との両立を踏まえて授業の設計や課題の内容等に工夫が必要である。
	<努力指標> 学習と部活動の両立についての意識が大切である。		生徒が学習と部活動の両立について A 十分に意識して両立に努力している。 B まあまあ意識して両立に努めている。 C あまり意識していない。 D ほとんど意識していない。	A+B=72%	生徒の意識としては、7割以上が両立に努力しようとしている。今後とも、工夫ある授業と適切な部の活動を実施する。	
	② 学校の特色として、部活動の活性化が求められており、生徒の積極的参加や県内外での成果を上げる必要がある。	年度当初は部活動の参加率も高いが後半にはリタイアする生徒が増えている。また、総体総合順位は昨年度5位であったが、優勝旗が飾られていない状況がある。	<努力指標> 部活動加入率の状況をみる。	後期の部活動加入率について A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。	B段階 <10月加入率> 84%	後期(10月)は、1・2年生の加入状況で評価した。途中退部生徒の転部、復部についての配慮が必要である。
			<満足度指標> 生徒が達成感を持って活動する必要がある。	生徒の部活動に対する充実感について A 十分に満足している。 B ほとんど満足している。 C あまり満足していない。 D 満足していない。	A+B=86%	86%の生徒が、部活動に積極的に取り組み、充実感を得ている。部活動の活性化は生徒指導や進路実現の重要な要素であり、魅力ある部活動を行い、加入率の上昇にもつなげたい。
			<成果指標> 県内での上位進出を目指す。	県総体での団体、個人ベスト4以上の成果が A 10種目以上あった B 7種目以上あった。 C 4種目以上あった。 D 4種目未満であった。	A段階	団体競技ではハンドボール、登山競技、個人では、水泳、ボウリングで全国出場を成し遂げた。ベスト4以上26種目であった。
			学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主学習時間が少ない。資格取得、検定等の目的をしっかりと持たせる指導の徹底を行い学習につなげれば良いのではないか。 途中退部の生徒への対応は困難も多いが、全職員一丸となって生徒を育てる、支えるという視点に立って克服して欲しい。 		
上記の結果を踏まえた今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> 教務、学年会、部活動での考査前後の補習をさらに充実させ、朝学習なども活用し、学習習慣の確立と自己学習力を身につけ高めさせる。 部活動の活性化は生徒指導や進路実現の重要な要素であり、魅力ある部活動を行い、加入率の上昇にもつなげる。 途中退部生徒については運動部に限らず文化部、工業部への転部を奨励する。 部活動の進路実現面での有用性を生徒、保護者に認識させる。 					

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	達成度判断基準	評価結果	分析と次年度に向けて	
4 「わかる授業」を目指して教師が常に授業力向上に努めるとともに地域社会との連携に積極的に取り組む。	① 生徒の基礎学力の確立と授業規律の向上を目指して、朝学習に取り組む。また、教師相互の授業参観等を通して授業力向上を目指す。	学習に対する意欲の向上が求められており、教師の創意工夫と自らの授業力向上が必要となっている。	<努力指標> 相互の授業参観を積極的に実施する。	教師相互の授業参観について A 年間5回以上実施できた。 B 年間3回以上実施できた。 C 年間1回以上の実施であった。 D 実施できなかった。	A+B=81%	相互授業参観については、A+B=81%（昨年度40%）と大幅に増加した。今後100%をめざし、継続した評価目標としたい。	
			<満足度指標> 生徒が教師の授業についてわかりやすいと感じているか。	生徒が「わかりやすい授業」について A 非常に分かりやすいと感じている。 B だいたい分かりやすいと感じている。 C あまり分かり易くない。 D ほとんど分からない。	A+B=89%	教師が工夫し、授業内容がほぼわかりやすいものになっている状況が伺えるが、さらに学習内容の定着を目指して取り組んでいきたい。	
			<努力指標> 朝学習をより効果的なものにする	朝学習の取り組みが落ち着いた学習への A 良い取り組みとなっている。 B まずまず良い取り組みとなっている。 C あまり効果的な取り組みとなっていない。 D 良い取り組みとなっていない。	A+B=61%	61%の教職員は朝学習にまずまず取り組んでいると答えている。更に効果的なものに工夫し、目標(70%)を目指したい。	
	② 保護者や地元の企業との連携を深め、保護者が学校を理解するとともに、地域社会が求める人材の育成に積極的に取り組む。	本校の実情を理解し、保護者とともに健全な生徒の育成に努めるとともに、インターシップを通して工業人の育成に努める必要がある。	<成果指標> P T A総会への積極的な参加を図る。	P T A総会への参加が A 40%以上である。 B 30%以上である。 C 20%以上である。 D 20%未満である。	C段階	P T A総会参加率は24%(169人/699人)であった。保護者の興味関心を引く行事などと組み合わせるなどの工夫を行いたい。	
			<満足度指標> 保護者が子どもの入学に満足している。	保護者が本校に子どもを入学させて A 非常に満足である。 B ほぼ満足している。 C あまり満足していない。 D 満足していない。	A+B=89%	目標(90%)にはわずかに及ばなかったが保護者の満足度は非常に高いものがある。今後はAの割合を増やす実践を行っていききたい。	
			<満足度指標> インターシップでの生徒の意欲を企業側として判定する。	インターシップにおいて、本校生徒は A 非常に意欲的であった。 B まずまず意欲的であった。 C あまり意欲的でなかった。 D 意欲が感じられなかった。	A+B=99%	企業アンケートで回答された総合評価の結果である。今後はAの割合を増やす学習実践を行っていききたい。	
	学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 朝学習は形式に流れず、画一的にならない工夫をお願いしたい。 保護者の参加意識を高め総会参加者の増加を図って欲しい。 保護者の満足度は高く、評価できる。 インターンシップへの生徒の取組は評価できる。 				
	上記の結果を踏まえた今後の方策		<ul style="list-style-type: none"> 研修や出前講座を活用し、教師の授業力向上につなげる。 朝学習の今年度の課題を洗い出し、指導方法、学習内容、形態を改善する。また取組優秀者の表彰を行い、向上心を喚起する。 保護者の興味関心を引く行事などと組み合わせるなどの工夫を行いP T A総会参加者を増加させる。 				